

大 会 宣 言

ここ出雲地方では、旧暦10月を「神在月（かみありづき）」と呼ぶ。全国の神々が縁結びのために集う「神在月」に、そして、私たちが初めて直面するコロナ禍という世界的な危機にあって、第11回日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会を、オンラインを駆使して開催し、無事に「集う」ことができたのは、私たちの励みとなり大きな自信となった。

新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常を一変させ、様々な社会問題を引き起こすとともに、気候変動に伴う自然災害の局地化・激甚化により、各地で未曾有の被害が発生しており、国民生活への影響は計り知れない。

また、世界が一体となって取り組むべき持続可能な社会の形成や自然環境の保全、気候変動への対応など、常にグローバルな感覚・視点を持って施策を講じることが求められている。

一方で、コロナ禍や大規模災害を経ることで、テレワークやワーケーションの普及が促され、移住やUIターンの機運が高まっていると同時に、地域の魅力を再発見し愛着を深める好機となっている。

時代が大きく変貌を遂げようとする今、地球、自然、人間の原点にあると言えるジオパークの意義について改めて確認し、これからのジオパーク活動について論じ合えたことは極めて有益であった。

市町村長セッションでは、コロナ時代のジオパーク活動や地域振興のあり方、活動に必要な財源や推進体制などについて議論を交わした。また、各分科会では、海ごみ問題や湿地における環境保全、ジオパークならではの目指すべき教育のあり方、ステークホルダーとしての地元企業を巻き込んだ持続できる地域経済の構築、地域団体・住民との連携やジオパークの国際ネットワークを生かした活動、災害体験の伝承等を通じたジオパークによる防災・減災などについて議論し、今後のジオパーク活動における方向性を示すことができた。

ジオパークは、世界が抱える多様な課題に積極果敢に取り組むことのできるプログラムである。私たちは、今大会を通じて、その課題解決のために、地球とのつながりを意識したうえで、地域の住民、団体、企業、行政の参画を促し連携して活動することの大切さや、各ジオパークとの交流によって得られた「ご縁」を生かし、ジオパーク同士のネットワークを充実強化することの重要性について確認した。

これらを踏まえ、ジオパーク活動のより一層の進展によって、地方創生を推進し、持続可能な地域社会を実現することを、ここに宣言する。

令和3年10月5日

第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会

実行委員長 島根県松江市長

上 走 昭 仁